

# 第14回ドライブレコーダーシンポジウム

－ ドラプリ2022 －

テーマ：コネクティッドモビリティ社会におけるドライブレコーダー

## ご挨拶と現状紹介

2022.12.1

ドライブレコーダー協議会会長 永井正夫

ドライブレコーダー協議会は、ドライブレコーダーの普及、発展、およびその映像等を活用した事故分析、事故予防技術の調査、研究、啓発を通して、安全安心な社会実現のための活動を行っています。

SDGs:

項目3：すべての人に健康と福祉を。世界の交通事故死者を半減する。

項目11：住み続けられるまちづくりを。



昨年の「ドラプリ2021」は、「ドライブレコーダーのAIの発展の可能性を探る」というテーマのもと、技術動向、サービス動向等についてご講演をいただきました。またパネルディスカッションでは、「ドライブレコーダーの機能にAIはどこまで必要か？」とのテーマで、議論を深めました。

本年のテーマは、昨年のAI技術とともに注目されている通信機能にスポットを当てます。

通信を活用し、映像等の情報を即時にデータセンターに送信、蓄積、分析できるようになることで、事故自動通報システムを始め、事故や不具合対応、自動運転や運転支援システムの開発、運転管理や交通安全教育、エンターテインメントへの活用など、多くの可能性が検討されています。いわゆる“通信型”になることで、今後ドライブレコーダーはどのように発展していくのか。さまざまな事例について講演を頂き、またパネルディスカッションにおいてより深掘りの議論を行う予定です。

以下、ドライブレコーダー協議会の本年度の活動方針・活動計画をご紹介します。

## 補償金制度の効率的運営

当協議会が運営する「交通事故時ドライブレコーダー買替補償金制度」とは、制度対象ドライブレコーダーを購入し、事前登録を行ったユーザーに対して、1年間、当該ドライブレコーダーを設置した車両でレッカー搬送を伴う交通事故にあった際に、ドライブレコーダーの再購入費用一律4万円の補償金を支払う制度である。

同制度は、2016年の発足以来、東京海上日動火災保険株式会社を引き受け会社として、運営してきた。2022年度は、業務委託を行ってきた事務業務を当協議会内で行えるよう体制整備を行い、運営の効率化を進める。これにより、各メーカーに負担いただいている費用を減額し、各メーカーがより参加しやすい制度に改善を行う予定である。

## ガイドライン作成部会

ガイドライン作成部会では、ドライブレコーダーの未来の技術・活用などについて、国内外における法整備に呼応したドライブレコーダーにかかわる標準化の提案と、ドライブレコーダーの安全性にかかわるモデル、シナリオ、妥当性検証、試験方法の提示することを目的とする。

本年度は通信型に関する第一ステップとして、ドライブレコーダーに関連する機能については、救急へり病院ネットワークの D-Call Net 研究会との連携、ドライブレコーダーを第2種 D-Call Net（後付け自動車事故自動通報システム）に適用する場合における仕様の取りまとめと公表を検討していく。

## 製品テスト部会

2022年度は新たに体制を整え、ガイドラインに基づいた、「製品テスト」の意義を考え直し、ドライブレコーダーに求められる姿を「製品テスト」という切り口で実施していく。そのためには、ガイドライン作成部会と製品テスト部会における活動が一体となり、速やかに検討結果を公表できるよう取り組みを強化していく。

## 技術・調査部会

2022年度は、データ活用部会とADAS部会、ロードマップ委員会を統合し、10年後を見据えた新たな部会として「技術・調査部会」を発足することとした。主な実施事項としては、

- ・ 第一に現在のドライブレコーダーの市場活況把握と動向の変化調査による現状分析と将来予測の提言を行う。
- ・ 第二に将来技術として市場投入が活発化し普及展開が進む可能性が大きいと予測される、ADAS・データ通信・緊急通報などの新技術調査研究を行い報告する。また、ガイドライン作成部会と連携して、ガイドラインに含まれるべき技術的な側面から活動を支援する。
- ・ 第三としては、ヒヤリハットデータ（東京農工大学保有など）の情報を活用しながら、事故や重大ヒヤリの原因について統計的な解析を行い、ガイドライン策定やデータ活用方法の検討に資する。

# 大学連携準備部会

2022年度で協議会の主たる事務所が小金井市に移転することになった。この場所は国立大学法人東京農工大学の敷地内にあり、スマートモビリティ研究拠点ドライブレコーダデータセンターのフロアの一部を賃借している。ドライブレコーダデータセンターでは20年近くドライブレコーダーの映像情報やセンサーデータを集積し解析を行い、日本の自動車安全技術の研究開発に広く利用されており、世界でも類を見ない研究用データベースとなっている。

このドライブレコーダデータセンターと多くの意見交換を行い、ドライブレコーダーの将来に明るい方向性を探るために、こういった部分で協力しあい何を決めていけば良いのかなど、具体的な協力関係を築いて議論する必要があるため、協議会側の窓口として「大学連携準備部会」を設置することとした。

